

学位論文要約
Extended Summary in Lieu of the Full Text of a Doctoral Thesis

乙第 1485 号

氏 名： 西 尾 彰 泰
Full Name Akihiro Nishio

学位論文題目： 名古屋のホームレスにおける精神疾患、知的障害、認知障害の有病率とその重複に関する調査

Thesis Title Prevalence of Mental Illness, Cognitive Disability, and Their Overlap among the Homeless in Nagoya, Japan

学位論文要約：
Summary of Thesis

ホームレスでは精神疾患の有病率が高いことが欧米諸国の調査で報告されているが、知的／認知障害に関する調査は少なく、精神疾患と知的／認知障害の重複に関する報告は、我々が知る限り存在しない。また、本邦ではホームレスの精神疾患の有病率に関する調査が 1 件あるのみで、知的／認知障害に関する報告はない。そこで、我々はホームレスの精神疾患、知的障害、およびその重複の有病率を測定し、それら障害がホームレス生活に与える影響について分析を行った。

【対象と方法】

対象者は、「ホームレス」の国際的な定義「住居を持たない者。シェルター等、一時的な居住施設に入所している者を含む」を満たす名古屋市内の者 114 人（男性 106 人、女性 8 人）。精神疾患については、半構造化面接を作成し、DSM-IV に従って精神科医が診断を行った。知的／認知障害については、WAIS-III 簡易版と JART-25 により診断した。現在の IQ と JART25 によって測定されるピーク時の IQ の比較することで、生来の知的障害であるか、後天的な認知障害であるかも判断した。また、「あなたは、ホームレス生活から抜け出したいですか」という質問に対して「非常に抜け出したい」から「全く抜け出したいくない」までの 5 段階の中から回答を選んでもらい、この回答とそれぞれの障害の有無との関連を分析した。

【結果】

対象者の背景は、年齢が 20～78 歳（平均年齢 54.0 ± 12.6 歳）、居住形態については、路上生活が 72 人、一時施設 35 人、無回答か、それ以外の場所が 7 人であった。精神疾患を有すると診断された者は 42.1%であり、その内訳は、精神病性障害が 4.4%、気分障害圏が 17.5%、不安障害が 2.6%、アルコール依存症・乱用が 14%、人格障害が 3.5%であった。また、対象者の平均 IQ は 79.2 ± 21.0 であった。34.2%の者が知的障害圏(IQ<70)であり、うち 20.2%が軽度知的障害圏、14%が中等度以上の知的障害圏であった。また、精神疾患と知的／認知障害の重複は 15.8%であり、いずれの障害も持たないものは 39.5%に過ぎなかった。WAIS-III と JART-25 で測定した IQ の比較から、知的障害圏であった者のうち、およそ 50%が後天的な認知障害であることがわかった。「ホームレス生活から抜け出したいですか」という質問と、障害との関連では、知的／認知障害を持つ者は、29%が「全く抜け出したいくない」と答えたのに対し、精神障害のみを持つ者、障害を持たない者では、「全く抜け出したいくない」と答えたのは、それぞれ 4%、0%であり、知的障害を持つ者は、ホームレス生活から抜け出したがらない傾向が認められた。

【考察】

本稿は、日本語で書かれた報告を含めても、日本のホームレスの精神病有病率に関する 2 件目、知的障害に関する最初の報告である。調査により、名古屋市のホームレスの精神疾患・知的障害の有病率は、日本人

の一般成人と比較すると非常に高いことがわかった。また、欧米諸国の報告と比較すると、日本人のホームレスでは、うつ病の有病率が高く、アルコール依存症、薬物依存症、人格障害の有病率が低かった。また、欧米と比べて、日本では知的障害圏の低 IQ の者の多く、そのうち約半分が、後天的な認知障害であることがわかった。日本のホームレスの平均年齢は、他の国と比較して高いため、加齢や精神疾患による変化の影響を受けている可能性が高いことが推察された。知的／認知障害を持たないものは、ホームレス生活から抜け出すことを希望したのに対して、知的／認知障害を持つものは、ホームレス生活から抜け出したがらない傾向が見られた。これは、ホームレス者による支援の拒絶が、障害に起因する社会的適応への困難さに由来している可能性があることを示しており、行政や支援者は、当事者が何らかの障害を持っているという視点を持って、関わる必要があると考えられる。

【結論】

本調査の結果、ホームレス生活を営む対象者のうち、およそ **60%**が、精神疾患か、知的／認知障害を有しているという事実は、ホームレスへの支援を考える上で重く受け止めなければならない。彼らを支援するには、精神疾患や知的／認知障害が、ホームレス生活に至った原因や、抜け出せない理由となっているという視点を持つことが重要であることが示された。